

交流事業「餅つき体験」

餅つきで日本の食文化を体験



まずは農家の方にお手本を見せてもらいます



手際よくお餅を丸める帰国者のみなさん



あん、きなこ、よもぎなど数種類つくりました。

2月22日、東区民センターにて餅つき体験を開催しました。帰国者28名が参加しました。日本の文化とは言え、手間や労力、特別な道具も必要とする餅つきは、今や日本人でもなかなか体験する機会はないのではないのでしょうか。今回の体験は、道内の農家さんに材料や道具を準備してもらうという形で実現しました。

日本ではお餅は主にお正月に食されますが、中国やロシアではどんなお正月料理をつくるのか、どんな食材がよく食べられるかなど、食にまつわる話題で交流しながら、つきたてのお餅を楽しむことができました。

深い共感をもって交流



アイヌの民族衣装を着て記念撮影

2月27日、アイヌ文化の伝承活動を行う「あーと・ひろ」のみなさんをお招きし、アイヌ文化体験を開催しました。帰国者・支援者計25名が参加し、アイヌ文化を通じて交流の場を持ちました。

体験ではアイヌの歌や踊り、ムックリ（口琴）、トンコリ（五弦琴）の演奏などが披露されました。またすべて手づくりだというアイヌ刺繍の施された民族衣装を着て記念撮影をしたり、みんなで一緒に輪踊りをしました。

「あーと・ひろ」主宰の川上裕子さんは冒頭のあいさつの中で、アイヌ民族としての自身の生い立ち、差別に苦しんだ過去について語りました。

「みなさまも日本に帰ってこられて大変苦労されたと思いますが…」と、帰国者に共感し、寄り添う気持ちがあふれていて、会場はすぐに打ち解けた雰囲気となりました。現在75歳であること、10人のお子さんがいること、当日来ていた「あーと・ひろ」の5名のメンバーが全員娘さんであ



川上裕子さんと5人の娘さん

ることなどを話すたびに、会場からは拍手と歓声が湧きおこりました。

以前はアイヌであることが嫌で仕方なかったという川上さんですが、40代で北海道に戻ったことをきっかけに自分の運命と受け入れ、お子さんとともに伝承活動に取り組んでいます。そして、「今は幸せ。アイヌでよかったと思う」と言います。帰国者のみなさんが「日本に帰ってきてよかった」という心境と通じるものがあるのではないのでしょうか。



みんなで輪踊り

生活の中に息づく文化

アイヌの言い伝えや、自然の描写、家族への思いなど、様々な内容の音楽や踊りが披露されました。最後の一人になるまで踊り続けるという、体力くらの楽しい踊りもありました。

アイヌの文化が自然や日常生活と密接に結びついていることを実感することができました。



アイヌの民族楽器ムックリ



トンコリの演奏



ウボボ (アイヌ語で歌を意味する)



リムセ (アイヌ語で踊りを意味する)

稚内・「愛する女性を祝う会」



身近にいる女性に感謝



国際女性デーにあたる3月8日、稚内日口経済交流協会に地域生活支援推進事業を委託している稚内市では「愛する女性を祝う会」が開かれました。男性陣がこの会を企画し、女性たちへの感謝を表すこととなりました。ロシアではこの日は祝日とされ、男性から女性に贈り物をします。花が贈られる場合が多く、中には花であられます。もともと政治的な意味合いを持つ祝日ですが、現在は女性を讃え、感謝する日となっています。会ではNPO法人日本サハリン協会の斎藤弘美会長、札幌の樺太帰国者からのビデオメッセージが上映されたほか、男性から女性だけでなく、女性から男性にも贈り物が贈られました。

今回の企画の中心的な役割を果たした樺太帰国者のHさんは、「身近にいる女性を気遣い、感謝することは、本当はいつもするべきこと。多忙な日常の中でつい忘れがちだけれど、この日が思い出させてくれる」と語っていました。

稚内・そば打ち体験教室



3月29日、稚内市で令和4年度最後の行事「そば打ち体験教室」が開催され、樺太帰国者9名が参加しました。講師のお手本を見た後、二人一組になってそば打ちに挑戦しました。ほとんどの人が初めての体験でしたが、ロシアでも小麦粉の生地をうどんのように麺状にして、スープに入れて食べることがあるため、慣れた手つきで作業をしている人もいました。最後はみんなで茹で上がったそばに舌鼓を打ちました。

～そばはロシアでも食べられています～

日本人にとってそばは日本食、そして麺にして食べるのが一般的ですが、実際は、そばは日本以外でも様々な調理方法で食べられています。世界最大のそばの生産国であるロシアでは主要な食料のひとつとして位置付けられており、殻を取った実をお粥にしたり、付け合わせとして食べられています。



新任・退任のあいさつ

3月末で退任した職員と新任の職員を紹介します。



関口 裕子

はじめまして。4月より中国帰国者支援・交流センターに勤務している関口裕子と申します。

7年前に北海道に移り住み、3月まで函館市に住んでいました。北海道ではまだ行ったことのない場所も多いので、いろいろな場所に旅行もしてみたいです。

センターのみなさんと一緒に様々なことを学び、視野を広げていけたらと思っています。お気軽にお声がけいただけたら嬉しいです。どうぞよろしくお願ひします。



鹿野 牧子

2年という短い期間ではありましたが、みなさんには大変お世話になりました。着任の前より、平和構築についての勉強会に参加していた

こともあり、戦争を身近に捉えていたつもりでしたが、帰国者のみなさんの視点や経験からくる力強さは迫力があり、より具体的な沢山の学びをいただきました。戦中戦後、今日の生活まで連続する労苦や喜び、学習に対する意欲や、楽しいことは楽しむ思い切りの良さと、相手のことを思いやる、溢れる優しさに支えられました。とても感謝しています。

主に交流事業を担当させていただいたのですが、ともに楽しい時間が過ぎました。これからも、経験をチカラにした、強さとしなやかさを大切にさせていただきたいと思います。健康でお元気に過ごされますようお願いしています。